

「取組と目標」に対する自己評価シート

|      |       |
|------|-------|
| 市町村名 | 南越前町  |
| 所属名  | 保健福祉課 |
| 担当者名 | 竹内亮子  |

※作成にあたっては、「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」P38～47を参考にしてください。

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

| 第8期介護保険事業計画に記載の内容 |  |  |   | R4年度(年度末実績)   |      |  |
|-------------------|--|--|---|---|------|--|
| 区分                | 現状と課題  | 第8期における具体的な取組  | 目標(事業内容、指標等)  | 実施内容  | 自己評価 | 課題と対応策   |
| ①                 | 地域ふれあいサロンの1回あたりの参加者数は年々減少し、平均10人まで落ち込んでおり、担い手不足や継続が困難な地区がある。                                       | ○サロンに参加しない高齢者にも配慮しながら、サロン継続のための支援に取り組む。<br>○サロン運営について、協力員や区長、民生委員、介護予防サポーター等と協同し、近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等のマッチングをはかる。 | ○ サロン会場毎の開催回数増<br>R3年度 54会場 延700回<br>平均13.0回<br>延7,300人<br>R4年度 57会場 延800回<br>平均14.0回<br>延8,300人<br>R5年度 57会場 延900回<br>平均15.8回<br>延8,800人 | ●一般介護予防事業等との連携と経過確認の強化等<br>●民生委員会等での情報収集や地区毎のサロン参加状況の把握<br>●山海里体操の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ<br>●サロン協力員や民生委員に対し、介護予防サポーターやフレイル(虚弱)予防サポーター養成講習への参加勧奨(特に男性)、講習後のサロン参加への支援<br>●サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング)<br>●近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援<br>●R4年度 サロン開催 55会場 778回 | ○    | 【課題】<br>・1会場当たりの参加人数の減少と男性参加者の取り込み<br>・サロンに参加していない高齢者の実態把握<br>・高齢者の自主的な健康づくりへの支援(サロン以外)<br>・サロン協力員の運営の負担軽減<br>【対策】<br>・一般介護予防事業等との連携と経過確認の強化等<br>・民生委員会等での情報収集や地区毎のサロン参加状況等の把握<br>・サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング)と、近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援 |
| ①                 | 元気な高齢者が社会の中で役割を持つことが、高齢者自身の介護予防や生きがいにもつながることから、高齢者をこれからの地域を担う重要なマンパワーとして位置づけ、その地域活動を積極的に支援することが必要。 | ○ 脳元気お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)による人材の育成・登録<br>○ サポーターの活動内容の共有、活躍の場とのマッチング等による参加者兼支援者としての役割を強化                          | ○ 脳元気お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)の開催<br>毎年度1クール6回で実施<br>○ 介護予防サポーター登録者数を増やす<br>R3年度 93人<br>R4年度 103人<br>R5年度 118人                               | ●脳元気お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)の開催<br>回数 1クール計6回/年<br>開催 令和4年7月～8月<br>修了者実人員 13人<br>●介護予防サポーター登録 13人<br>登録者累計106人  | ○    | 【課題】<br>・サポーター活動意欲に差が生じやすい<br>・教室修了者と地区活動が結びつかない<br>【対策】<br>・活動の紹介やアンケート調査等より参加者兼支援者としての活動意欲の向上をはかる<br>・フレイル(虚弱)チェック等役割を持つという活躍の場につなげる<br>・スキルアップセミナーの内容も含め講習会の内容を充実させる<br>・地域ふれあいサロンへの支援実績により助成される、介護予防サポーター加算についての周知                         |

| 第8期介護保険事業計画に記載の内容 |   |  |   | R4年度(年度末実績)  |  |   |
|-------------------|---|--|---|--|--|---|
| 区分                | 現状と課題   | 第8期における具体的な取組  | 目標(事業内容、指標等)  | 実施内容   | 自己評価   | 課題と対応策  |
| ①                 | 「認知症カフェ」や「介護者のつどい」の実施回数が少なく、介護者同士の交流の機会が得にくい現状があった。「認知症カフェ」の充実を図り、認知症の方本人の社会参加や介護者同士の交流を上げていくなどの家族支援が必要。あわせて、認知症サポーター養成講座後の地域での活動について支援していく。                                  | ○「認知症カフェ」を設置する際に開設費、運営費を補助。運営方法などの活動支援。<br>○活動意欲のある認知症サポーター等がボランティアとして運営に携わることで、サポーター養成後の地域での活躍の場を創出   | ○「認知症カフェ」設置数増<br>R3年度 3会場 実施回数12回以上<br>R4年度 3会場 実施回数12回以上<br>R5年度 4会場 実施回数20回以上 | ●R4年度「認知症カフェ」設置事業所 3事業所 実施回数 0回<br>●「在宅介護者のつどい」会場での個別相談対応 2回(社協包括) | ×<br>・R4.8月の大雨災害により「認知症カフェ」設置事業所の1事業所が被災し、年度内の実施困難な状況となった。他2事業所においても、新型コロナウイルス感染症の流行による県の特別警報や自施設でのクラスター発生等が相次ぎ、カフェ実施に至らなかった。<br>・社会福祉協議会で実施する「在宅介護者のつどい」に社協包括職員が参加し、介護者の個別相談に対応することで家族介護者のストレス軽減に繋げることができた。 | 【課題】<br>・自然災害等や感染症の流行により、事業所での実施が困難となる。<br>・カフェ開催時、事業所職員のみでは負担が大きくボランティアを受け入れる体制が整っていない。<br>【対応策】<br>・感染対策や開催時期、事業所以外での開催場所について再度検討を行う。<br>・地域の介護OBや認知症サポーターなど多様なボランティアが関わる体制構築に向け、研修等実施。                                       |
| ②                 | 高齢化が加速し、介護サービスが必要な高齢者が増加している。過度なサービス提供に至らないよう、適切なケアプランとなっているかの検証確認が必要。ケアプラン作成においては、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上を支援し、介護給付の適正化へつなげる。   | ○保険者、主任介護支援専門員、ケアプランを作成した介護支援専門員が協働してケアプラン点検を実施。<br>○介護支援専門員に対し、地域ケア個別会議における多職種での事例検討により、自立支援の視点への気づきを促す。<br>○実施指導にて、ケアマネジメント実施状況の検証確認を行う。<br>○福祉用具の例外給付や居宅介護支援事業所における特定事業所集中減算対象事業所等へのケアプラン点検を行う。 | ○ケアプランの点検実施<br>R3年度 12件<br>R4年度 12件<br>R5年度 12件                                 | ●ケアプラン点検 12件<br>・ケアマネ協働点検 3件<br>・地域ケア個別会議 6件<br>・運営指導 3件           | ○  | 【課題】<br>ケアプラン点検実態調査より質の高いケアプランの定義を参考に点検を実施したが、アセスメント不足により課題の抽出が曖昧であり、目標に具体性がないケアプランがあった。<br>【対策】<br>介護支援専門員が所属する事業所によりケアプラン作成における基本方針が違う場合もある為、ケアプラン点検において、介護支援専門員と主任介護支援専門員と保険者が協働して、ケアマネジメントの基礎を確認する。                         |
| ①                 | 助け合い活動に意欲のある住民が集まり、地域の現状を知り目指す地域像や地域にとって必要な活動などを話し合い、活動の場を設けて子どもから高齢者まで誰でも参加できる集いの場を今庄地区で行っている。また令和3度から町内初の第2層協議体(移行予定)として活動している。今後はその他の地域においても地域での活動を発展させ、第2層協議体を広めていく必要がある。 | ○今庄地区の活動や打合せの場に生活コーディネーターや行政職員も参加し構成員が主体的に活動できるよう支援する。<br>○その他の地域にも第2層協議体を設置するために、興味を示している方々に活動のアドバイスや現在ある第2層協議体の活動の見学を実施。   | ○第2層協議体の設置<br>R3年度 1件<br>R4年度 1件<br>R5年度 2件                                     | ●第2層協議体の設置<br>今庄地区の活動を第2層協議体として移行<br>●活動支援<br>月1回の活動及び打合せに参加(社協委託) | ○  | 【課題】<br>・今庄地区の活動では運営メンバーが固定されており担い手不足となっている。<br>・他団体との連携、情報交換等する場がなく他団体の活動が不明瞭でつながりを作りにくい。<br>・新規の第2層協議体の立ち上げは、地区や中心メンバーの選定が困難<br>【対策】<br>・今庄地区の活動の継続のため、引き続き主体的な取り組みを支援していく。<br>・団体間の交流の場や、地域での助け合い活動に関心をもってもらえるよう勉強会の開催を検討する。 |